

11月のてがたんにご参加いただきありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回12月のてがたんは12月10日(土)で、テーマは「葉っぱの形で木の名前がわかるかな?」です。

*市民スタッフの方へ 次回のてがたん下見は、12月4日(日)の9:30からです。

11月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→親水広場→市民農園→藤棚
- 観察日時と天気：2016年11月12日(土) 10:00~12:00 晴れ
- 市民スタッフ：7人 (須貝基康、寒江洋次、伊東茂子、木村稔、小泉伸夫、弘寛さと子、湯瀬一栄)
- 鳥博職員：1人 (小田谷嘉弥)

観察した生き物の記録

【鳥類】

キジ科：キジ(羽毛) / カモ科：マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、ミコアイサ / カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ / ハト科：キジバト / ウ科：カワウ / サギ科：サンカノゴイ、アオサギ、ダイサギ、コサギ / クイナ科：クイナ(声)、オオバン / カモメ科：ユリカモメ、ニシセグロカモメ / ミサゴ科：ミサゴ / タカ科：トビ、チュウヒ / カワセミ科：カワセミ / ハヤブサ科：チョウゲンボウ / モズ科：モズ / カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス / シジュウカラ科：シジュウカラ / ヒヨドリ科：ヒヨドリ / ウグイス科：ウグイス / エナガ科：エナガ / メジロ科：メジロ(声のみ) / ムクドリ科：ムクドリ / ヒタキ科：ツグミ(声)、ジョウビタキ(声) / スズメ科：スズメ / セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ / アトリ科：カワラヒワ、ベニマシコ / ホオジロ科：ホオジロ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン
家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)、ドバト(ハト科)

*ミコアイサ、チョウゲンボウ、クイナは解散後、鳥の博物館までの帰り道で観察。

【両生類・魚類】

ニホンアマガエル、ウグイ?(ミサゴに捕獲されたもの)

【昆虫】

トンボ目：アキアカネ、オオアオイトトンボ / チョウ目：モンシロチョウ、モンキチョウ、キタキチョウ、キタテハ、アカタテハ、ヤマトシジミ、ルリシジミ、ベニシジミ、ウラギンシジミ、ジャコウアゲハ(蛹)、コチャバネセセリ、スジモンヒトリガ(幼虫)、ヒロヘリアオイラガ(蛹) / コウチュウ目：ヒメアカホシテントウ、ゴミムシの仲間 / カメムシ目：プラタナスグンバイ / 直翅目：コバネイナゴ、オンブバッタ、マダラスズ、シバズ、カネタタキ、クサヒバリ、双翅目：スズメバチの仲間

【クモ】

ナガコガネグモ、ハシリグモの仲間

【花・実】

[花]キク科：ヒメジョオン、ノゲシ、セイヨウタンポポ、ハキダメギク、セイタカアワダチソウ、カントウヨメナ、オニノゲシ、コセンダングサ、オオジシバリ / カタバミ科：カタバミ / クマツヅラ科：ポタンクサギ / タデ科：イヌタデ、ミゾソバ / アカバナ科：ヒレタゴボウ / ナス科：ヨウシュチョウセンアサガオ、アメリカイヌホオズキ / イネ科：チヂミザサ、スズメノヒエ / フウロソウ科：ゲンノショウコ / シソ科：ホトケノザ / オオバコ科：オオイヌノフグリ / ナデシコ科：コハコベ / キツネノマゴ科：キツネノマゴ / マメ科：シロツメクサ

[実]イネ科：ヨシ、チカラシバ、ススキ、カゼクサ、 / キク科：コセンダングサ、アメリカセンダングサ、タデ科：アキノウナギツカミ / アカネ科：ヘクソカズラ / ツヅラフジ科：アオツヅラフジ / アカザ科：アカザ / アサ科：エノキ、ムクノキ / クスノキ科：シロダモ / ウコギ科：キツタ / メギ科：ナンテン / カバノキ科：ハンノキ / バラ科：ノイバラ

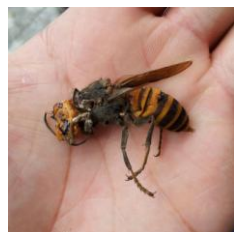
観察した生き物の記録



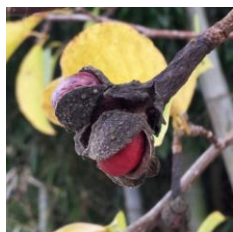
今回のてがたんのテーマは「カモいろいろ」でした。コガモ、マガモ、カルガモなどをじっくり観察できたほか、ミサゴの狩りや食事の様子を近くで見られました。他にも、多くの冬鳥を観察することができました。



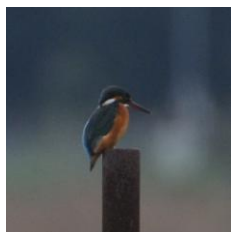
今月の案内人 須貝基康さん、寒江洋次さん



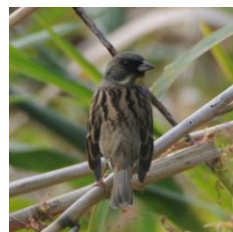
① 博物館前に落ちていたスズメバチの仲間



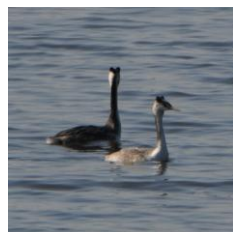
② 赤く色づいていたコブシの実



③ 杭から魚を狙っていたカワセミの雌



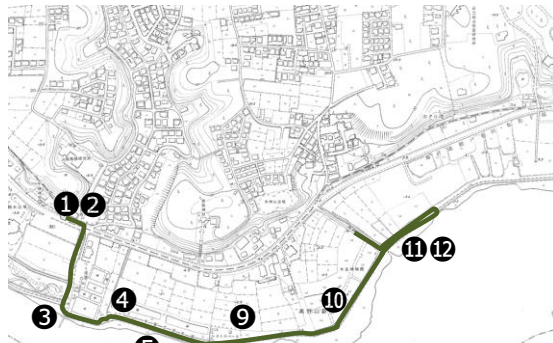
④ 藪からはアオジの地鳴きが聞こえました



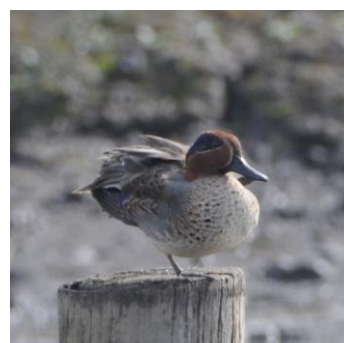
⑤ 沼の水面に群れていたカンムリカイツブリ



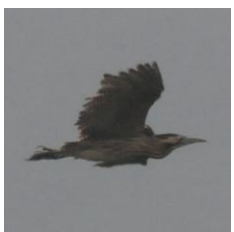
⑥ 沼の上空を旋回していたマガモの群れ。秋の渡来直後には落ち着きなく飛び回る様子がよく見られます。



歩いたルートと観察した生き物



⑪ 杭の上で休息していたコガモの雄。地味なエクリプス羽から美しい生殖羽への換羽が進んでいます。



⑦ 手賀沼では80年ぶりに見られたサンカンゴイ(注)画像は他所で撮影



⑧ 目の前でダイビングを見せてくれたミサゴ



⑨ 赤く色づいたアキアカネの雄



⑩ 遊歩道に落ちていたキジの雌の風切羽



⑫ 雄に比べて地味な雌のコガモ

今月の鳥 コガモ カモ目カモ科

コガモは、ハトくらいの小さいカモの仲間で、国内の水面採食ガモの中では最小です。手賀沼では最も数の多いカモの一つで、9月ごろにロシア東部などから渡来し、5月上旬まで普通に見られます。雄は渡来直後は雌に似た姿をしていますが、12月ごろまでには美しい生殖羽を身にまといまします。羽を生え換えると、コガモはつがい形成の季節に入ります。雄は雌を囲み、「プリッ、プリッ」と笛のような声で鳴きながら、嘴で水をはね上げた後に体を持ち上げるディスプレイを行います。1月ごろから、このような光景が沼のあちこちで見られるようになります。可愛らしいコガモの求愛行動をぜひ観察してみてください。



集団で雌に求愛するコガモの雄